

# 中国の一人っ子政策

## ～27年目を迎えて

C.B記者(中国)

### 中国の「一人っ子政策」とは

「一人っ子政策」とは、1979年から実施されるようになった政策で、「一組の夫婦に子どもは一人」という政策です。つまり、夫婦二人は一人の子どもしか産めないということです。二人生んだ場合には、たくさんの罰金を取られた上、仕事も首になるほどです。中国では今でもこのような政策を取っています。ほかの国の政策とはだいぶ違うと思います。では、中国はなぜこの政策を取るかというと、ご承知のように、中国は今13億人、世界第一の人口を抱えています。日本と比べると、10倍くらいです。しかし、1949年中国建国の時、そのときの人口は今のわずか3分の1の4億人でした。

### 「一人っ子政策」の背景

もともと中国では「多子多福」（子どもが多ければ、幸せも大きい）という伝統的な考え方が強いです。その上、1950年代、政府が人口は多ければ多いほど生産力の発展にもよいという説を打ち出したため、人口が急に増加しました。

1979年までの30年間、中国の人口は倍以上増え、過剰な人口が国の発展の妨げになりました。このような状況の下で、政府が「一人っ子政策」を実施し始めたというわけです。

### 「一人っ子政策」の例外

でも、この政策はだれでも子ども1人しか産めないわけではありません。都市では厳しく実施されていますが、農村部では、例えば、1人目が女の子の場合、2人目持つことも認められます。なぜかということ、農村部では労働力が大事なものですから。それ以外、この政策は少数民族にも適用されません。

### 「一人っ子政策」の功罪

1979年から数えて、中国の「一人っ子」政策は25年も経ちました。この間、中国の新生児数は3億人減少しました。現在の人口増加率は2%を下回り、先進国の水準近くまで減少しています。

一方、一人っ子政策がもたらした問題も多いのです。例えば、人口の高齢化など。2030年頃には65歳以上の老年人口が15%になる高齢化社会の到来が予想されます。こうした中、中国の「一人っ子政策」も改革に迫られています。

### 「一人っ子政策」の変化

2004年下半期より、上海は「一人っ子政策」に関する新しい条例『上海市人口と計画生育条例』を実施しています。いわゆる“DINKS”（Double Income No Kids= 子どもがいない共働きの夫婦）の奨励をせず、第二子をもうける条件を緩和したのです。

2003年、上海の人口自然増加率は、マイナス3.24%。高齢化も加速しています。核家族が上海の主な家族形態となり、一戸あたりの人数は2.8人。こうし

た流れを食い止めるため、新条例では、“DINKS”の男女が退職しても、従来どおり一回限りの奨励金を受けることはなくなりました。なお、その他の例外として、夫婦がともに「一人っ子」の場合と、中年男女が再婚した場合に限り、第二子の出産が許されるということです。

#### 「一人っ子政策」の今後

2006年、中国はそろそろ「一人っ子政策」実施の27年目を迎えます。これまで、欧米諸国からの人権批判もありますが、この政策が果たす中国の人口抑制、そして経済発展、人民生活水準の向上への貢献は否定できません。これからの「一人っ子政策」は時代とともにどう変わっていくのかは検討すべきところです。

(2006/03/06)